

## サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成 30 年 11 月 16 日（金） 19 時 00 分～20 時 30 分
2. 開催場所：文部科学省情報ひろばラウンジ（東京都千代田区霞が関 3-2-2）
3. 関係団体等：国立環境研究所 社会対話・協働推進オフィス
4. 役割  
講師：江守 正多（国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長、日本学術会議連携会員）  
講師：宇佐美 誠（京都大学大学院 地球環境学堂 教授、日本学術会議連携会員）  
司会：岩崎 茜（国立環境研究所 社会対話・協働推進オフィス 科学コミュニケーター）
5. 概要：  
テーマ「気候変動の科学×哲学」  
講演内容：  
気候変動問題について、自然科学と哲学という異なる分野の講師が、それぞれ 3 つずつ相手に質問を投げ合い、多様な視点からこの問題に迫った。  
科学（江守）から哲学（宇佐美）への質問は、被害を受ける途上国や未来世代に対する視点、倫理的課題を自分事として捉える等、気候変動によって生じる「正義」や「責任」に関するものだった。  
これに対して哲学から科学への質問は、気候変動の原因はどこまで明らかにされているのか、予測に幅があるのはなぜか等、この問題の科学的不確実性に関わる内容だった。  
後半は会場からの質問に講師が答え、参加者との対話により議論を深めた。たとえば、「科学者としてではなく、一個人として、気候変動問題をどう捉えているか」、「地球全体で取り組む必要がある一方、途上国には発展の権利がある。正義の視点からどう考えるか」といった、講師個人の考え方を問うような質問が続き、会場はそれらの回答に熱心に聞き入った。
6. 参加人数：  
講演者等：6 名  
その他の参加者：36 名
7. 特記事項：  
このテーマにもともと関心のある参加者が多く、終了後も 30 分以上、講師と個別に話したい参加者の列が切れなかった。